

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500777		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホーム あんしん		
所在地	千葉県茂原市下永吉345-2		
自己評価作成日	平成23年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で「自立した日常生活にぬくもりのある暮らし」を提供させていただきまます。職員の笑顔を優しい会話に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は民家を改修した建物で、入居者にとって馴染み深い造りとなっている。「個人を尊重し、安全で安心できる楽しく美しい共同生活を、地域を含めた和を持って確立する。」という法人理念を基にして、施設の名を「あんしん」としている。職員全員が入居者との馴染みの関係を大切にしており、個人を尊重しながら日々のケアの実践に取り組んでいる。法人の社長が看護師の資格があり、併設施設の看護師と共に適切な健康管理や服薬管理が実施されている。また、24時間連絡を取る事が可能となっており、緊急時・重度化・終末期における連携体制が整備されており、入居者の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム運営理念を、玄関・事務所・居間などに掲示し、申し送り時など職員に確認し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	「個人を尊重し、安全で安心できる楽しく美しい共同生活を、地域を含めた和を持って確立する。」という法人独自の理念に掲げている。理念を施設内に掲示し、全職員に配布していると共に、申し送り時に確認する等、理念の共有とサービスの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事等に参加し、交流を深めている。	散歩の際には、近隣住民とは挨拶を交わしたり、おすそ分けをいただく等の関係を築いていると共に、自治会に加入しており、地域の行事に参加する等、地域との交流を深めている。地域住民の見学や来訪等を随時受け付けており、施設の理解促進に繋げている。高校生の職場体験の受け入れ等を行っており地域貢献に努めている。他に、隣接のキリスト教会とは行事開催時の行き来・教会の人達による施設内の草刈の手伝い等、交流が密に行われており、外部の人とふれあう機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者に貢献できないか話し合っているが実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・社会福祉協議会・家族等に参加して頂き、実施。(1回)	自治会長・社会福祉協議会職員・家族・職員等を構成員として、運営推進会議を、昨年度は1回開催した。	運営推進会議を定期的に行う事により、施設の理解促進・地域・行政との情報交換等を行って頂き、今後の施設サービスの質の向上に繋げて頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、業務の相談や、外部研修の紹介などをしてもらって連携を図っている。	市に対しては業務全般の報告や相談等を行っており、市との連携を図っている。市職員の巡回の際には意見・情報交換が行われていると共に、市役所にパンフレットを置かせてもらう等、協力体制を構築している。地域のグループホーム連絡会に加入しており、会議時に情報交換を行い、問題解決に向けて市と協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する参考資料を用いて、職員会議で議題にし、共通理解に努めている。	身体拘束排除においては5つの方針を掲げていると共に、マニュアルも整備されており、全職員が身体拘束排除の意義を理解している。また、講師を招いての研修を実施し、職員全員に理解促進を図っている。日中は玄関の施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、全体会議にて議題にし、理解を深め取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	第6ブロック・グループホーム連絡会で勉強会を実施しており、理解を出来るよう職員を参加させている。(県の研修会にも申請をしているが、受講指名を受けられないでいる。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、利用者・家族の不安や疑問を尋ね十分な説明をし理解・納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情相談窓口は、茂原市の高齢者福祉課、内部の相談窓口は管理者が行っている。職員の名前を掲示し、家族が気軽に話しかけやすいよう取り組んでいる。	苦情・相談窓口や意見箱を設置していると共に、家族の面会時や電話連絡時に家族の意見・要望を確認している。挙げた意見・要望等においては、申し送りノートを活用し、周知・検討し、迅速で適切な改善に取り組んでいる。職員の写真を掲示しており、家族との関係を深める事で、意見や要望の言いやすい環境作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定例化し、会議開催時に翌月の会議日程を決めている。、意見や提案を聞き職員の意向・希望に沿うように努めている。	会議や申し送りノートを活用し、職員からの意見・提案を確認している。必要に応じて施設長が社長に報告し、意見・要望を運営に反映できるよう工夫している。他に、職員が希望する研修への参加の機会を増やすための体制の整備を行っており、意欲を持って働ける職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く働いてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目指し、研修には積極的に参加できるように促している。(各個人で資格取得の勉強をしたりして、日々、自己研鑽し努力している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	第6ブロック・グループホーム連絡に参加しており、会議・勉強会などで情報の意見交換をしたり、他事業所の良いところを取り込んで質の向上に役立っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知度にもよるが、本人が困っている事や要望等を訴えられる場合は聞いている。業務優先や手のかかる利用者中心となってしまう、個々の要望を聞き入れられない状態である。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居前、見学に来られた時に相談や困っている事を聞き、入所の際には不安や要望を聞いている。面会時にも随時、相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には本人・家族のニーズを把握し、見極めて支援できるよう心掛けている。他のサービス利用もある事を示唆している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けている。(誕生日会など家族に連絡をする。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係は築けている。	入居者の希望や状況に応じて床屋や畑等の馴染みの場所への外出を支援している。また、家族・親戚・友人の来訪や贈り物等も自由行われており、馴染みの人との関係継続も支援している。他に、慣れ親しんだ郷土料理の提供等を通じて、馴染みの食生活の継続に心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士で話をしたり、歌を唄ったりして関わり合い、支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	断ち切らないようにはしている。(気軽に立ち寄ってくれるように努めている)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努めている。(重度の認知症の人には家族の意見を参考に本人だったらどうするか?どうするだろうと考え検討している。)	契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活暦等を確認し、記録している。必要に応じて主治医からの意見書もらい、より詳しい情報の収集に努めている。入居後は日々の生活や会話の中から意向を汲み取り、申し送りノート等を活用し、職員全員で情報の共有を図り、本人本位の支援に努めている。挙がった意向等は会議を通じて検討し、常に新しい情報共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らし・生活・趣味・生い立ちなどをフェイスシートやアセスメント表に記入して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の際に、ケアマネ同席にてカンファレンスを実施している。家族の要望や希望等、職員からの意見などフェイスシートやアセスメント表を活用し介護計画を作成している。	入居者・家族の意向を基に、会議等で意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。また、定期的に介護計画の評価や目標の達成状況を確認し、必要に応じて見直しを行っている。入居者の要望や状況に変化が生じた場合には個人記録を活用し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入している為、日々の様子などを参考にし、介護計画に活かしている。”気づき”ノートを作成し、意見交換をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所にあるデイホーム・グループホームに気分転換をかねて外出したり、通院の支援や隣の床屋・家族との外食など支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	良い関係を築きながら支援している。(健康診断・通院・往診・急変時にも対応してくれている)	協力病院以外にも、希望する医療機関への受診が可能になっており、要望に応じて通院の付き添い支援を実施している。協力病院とは医療全般において連携が図られていると共に、急変時・緊急時の協力体制が整備されている。併設施設の看護師による適切な健康管理や服薬管理がなされている。また、法人の社長が看護師の資格があり、24時間連絡を取る事が可能となっており、緊急時・重度化・終末期における体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営者が看護師で住まいが近くなので、急変時にはすぐ対応してくれる。非常勤の看護師が週一回勤務して健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい最後をむかえられるよう、主治医・看護師・家族・職員のチーム一丸となり環境を整え看取りを行った。	重度化・終末期における施設の方針を明文化し、契約時に同意書を交わしている。重度化した場合や終末期においては、家族・医療機関・職員等で話し合いを行うと共に、職員のシフトの変更・併設施設の看護師との連携等、意向に沿った支援を出来る限り行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のポスターを数箇所掲示し、いつでも見られるようにはしてあります。グループホーム連絡会で行われる救急救命講習にも順次参加を申し込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を行なっている。夜間を想定した避難訓練も実施。様々なケースに対応した避難方法にも取り組んで身につけている。	マニュアルや避難経路図等が整備されていると共に、火災報知器・消火器が設置されている。年2回、夜間を想定し、消防署の協力のもと消防避難訓練を実施している。自治会や近隣の教会や店等とは日々の交流を通じて、災害時・緊急時における協力体制が構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもある個人を尊重して、「介護をするではなく」「介護をさせていただきます」という意識で対応し、支援している。	接遇やプライバシーに関するマニュアルを整備しており、施設理念に個人の尊重を掲げていると共に、申し送り時を活用して職員全員に指導を徹底している。職員は馴染みの関係を大切にしながらも言葉遣いや介助方法に注意を払い、入居者のプライバシーの配慮に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思決定・希望を表せる方は納得して支援している。認知度によって異なる場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日程みたいなものはあるが、一人ひとりのペースや希望に沿うようにはしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理美容店を利用したり、家族が連れて行く。服装は季節の物を家族が持ってきてくださる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来る利用者が少ないが出来る仕事は一緒に行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から後片付けまでを職員と共同で行っている。献立においては同法人の栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。行事食・誕生会・手作りおやつを実施し、季節感や希望を取り入れる等、食の楽しみを提供している。また、個別に要望を取り入れた外食を実施しており、入居者の生活活性化に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量・水分量など個別に記録している。系列の特別養護老人ホームの栄養士が作成した献立を使用し、栄養バランスに努めている。毎月体重測定を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の意思に任せてあるが、声かけをして歯磨きをしてもらうようにしている。出来ない時に介護者が一部介助している。歯科医師が2週間に1回訪問診療に来て口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、時間帯でのトイレ誘導、オムツ交換をしている。オムツ会社と連携をとり、講習を実施。オムツ、パット類の見直しをしている。	排泄チェックリストを活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握していると共に、適切な声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を実施している。日常の記録簿を活用しながら、同法人の看護師と相談し、適切な排泄コントロールが行えるように連携を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事・牛乳・ヨーグルトなどの乳製品や、水分摂取などに気をつけ「生き生き体操」などで体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を取り入れ、入浴時間又は、シャワー浴・清拭などを行い、入浴拒否には、タイミングや声かけに工夫して対応する。	入浴は、入居者の希望に応じて、時間や回数等、柔軟に対応している。必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。また、脱衣所にカーテンを設置しており、プライバシーにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節に努め、気持ち良く休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日リハビリを兼ねた「生き生き体操」で体を動かし、誕生会の実施や配食サービスなどを行って気分転換などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、散歩・ドライブなど外出を行っている。季節ごとの催しなどにも参加している。	入居者の希望や体調に応じて、散歩・買い物・ドライブ等を実施して、外出支援を行っている。また、ドライブや外食等、希望に応じて個別に対応し、一人ひとりが外出を楽しめるよう支援している。他に隣接の教会への訪問等も実施され、外部との交流を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的な不安を口にする方は、財布を持ち、お金を持っていると感じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける利用者はいないけれど、電話の出来る利用者は、家族に電話をかけられるよう支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に手摺りを設置し出来るだけ段差を無くして安全面に配慮がされている。共有スペースには利用者の写真や季節の飾りつけがされている。	施設は民家を改修した建物で、入居者にとって馴染みのある造りとなっている。居間は和風で、椅子やソファが設置されており、入居者が思い思いに過ごせるような雰囲気となっている。また、施設内には季節の飾り付けや写真が掲示されており、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所・リビングが空間になっており、自由に移動しながら時間を過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を自由に持ち込む事が出来ており、入居者が安心して過ごせるよう配慮され、全居室にエアコンが設置され職員の空調管理がされている。	入居者・家族の希望に応じて馴染みの家具や使い慣れた品々を持ち込む事が可能となっており、安心して生活が送れるよう配慮している。また、入居者が馴染みの生活スタイルを選択できる等、生活歴に合わせた居室作りがなされている。全居室にエアコンが設置されており、適切な空調管理が行なわれている。希望により鍵を設置する事が可能となっており、プライバシーに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・わからないことは各自で行いそっと見守りをし、自分は自分らしく生活してほしい工夫をしている。		